

プロボノプラットフォームを通じた仙台市教育委員会との復興支援

安藤明伸*

Supports of Earthquake Disaster Reconstruction with Sendai Board of Education via Pro-Bono Platform

Akinobu ANDO

要約：本稿では、平成23年度および24年度にプロボノワーカーとして仙台市教育委員会主催の「児童生徒による故郷（ふるさと）復興プロジェクト」に参加したことについて報告する。このプロジェクトは、仙台市内の全小中学校に在籍する児童生徒のプロジェクトとして企画された。児童生徒からは、様々な取り組みの企画立案・実行を通して、児童生徒達から情報通信技術を活用して形に残したいというアイデアが出てきた。しかし、具体的な表現方法や技術力には限界があり、実現が困難視されていた。そこで、情報プロボノプラットフォーム(iSPP)という、プロボノ支援をしている組織へ相談し、プロボノワーカーを募集して頂いた。全国から集まったプロボノワーカーの一員として安藤研究室も参画し、平成23年度は、児童生徒の合唱曲に合わせて、市内各校で作成した応援旗を用いて、光・友・絆・笑の4文字を形作る映像作品やポスターの作成を、また平成24年度は市内各校での取り組みを撮影した写真を使用し、これまで頂いた支援に対する感謝の気持ちを伝えるモザイクアートポスター作成に携わった。

キーワード：プロボノ、仙台市教育委員会、児童生徒による故郷（ふるさと）復興プロジェクト

1. はじめに

3・11に起きた東日本大地震によって、仙台市内の小中学校も甚大な被害を受けている。児童生徒達にとって震災は忘れない悪夢であるが、震災前の懐かしい思い出や大切な記憶等の忘れたくない想いの狭間で復興へ向けての一步を進んでいる。こうした中、仙台市教育委員会では、平成23年度より「児童生徒による故郷（ふるさと）復興プロジェクト～復興へ！学校の力結集！～」を実施している。このプロジェクトは、東日本大地震から、ちょうど2ヶ月経った5月11日に始動した。主な趣旨は、児童生徒および教職員が保護者、地域住民、関係機関等と連携し、様々な活動を行うことを通して、児童生徒が将来に渡って地域社会に貢献できる力を育むというものである。本プ

ロジェクトの特徴は、市内各校で1年を通して数度にわたり様々な活動（清掃活動や挨拶運動など学校により独自の活動）を行うことである。特に大きな活動としては、各校の代表児童生徒が参集し行う復興サミットがある。この復興サミットでは児童生徒達自身が、自分たちに何ができるか、何を発信したいのか、今この想いをどのように形にするのか等について、活発に議論を行うものである。

その結果、平成23年度は市内の各小中学校で復興への想いを込めた応援旗を紹介する映像作品を作ること、そのBGMとして、児童生徒達が歌った曲「Believe」を使うこと等が決まった。平成24年度のサミットでは、全国・全世界からの様々な支援に対する感謝の気持ちを込めた七夕飾り製作活動に焦点を当てた。そし

* 技術教育講座

て、この七夕飾りを撮影したスナップ写真を、故郷復興プロジェクトにおける各校の取り組みの活動写真を使ったモザイクアートを作成することとなった。

しかし、そのアイデアからデジタルアートを実現するための具体的な方策やスキルなどは、専門知識と技術・設備が必要とされる。仙台市教育委員会としても、児童生徒の願いを叶えるために、どうすると良いのか具体的な方法が見付けられず困っている旨を、故郷復興プロジェクトの副委員長を務める吉成小学校の菅原弘一教頭よりお聞きした。

2. 「プロボノ」との出会い

一般に「ボランティア」という言葉は、広く認知されているが、「プロボノ」に関してはまだ知名度が低いと思われる。プロボノとは、ラテン語の「Pro Bono Publico」（公共善のために）を語源としており、ビジネスパーソンや専門家がスキルを活かして社会貢献することを意味する。つまり、ボランティアとの違いは、ボランティアとは狭義には「従事者の能力を問わず時間（単純労働）のみを提供する」のに対し、プロボノでは、自分の職業を通じて身につけた「職能」を提供するという点にある。

ボランティアの場合であれば、ボランティアセンターが窓口として設置される場合が多いが、プロボノに関してはそうした窓口が少ないため、プロボノ活動で社会貢献したいと思っても、最初の一步が踏み出しにくい。このような現状の中、「情報支援プロボノ・プラットフォーム（iSPP：information Support pro bono Platform）」が平成23年5月24日に設立された。筆者は、そこで初めて情報通信業界のプロボノ活動組織と接点を持つこととなった。

3. プロボノワーカーとしての参画

児童生徒の情報通信技術を必要とするアイデア実現の相談を受けた際に、この案件はまさにプロボノ活動としてふさわしいものと考えられた。しかし、児童生徒のアイデア実現は、技術的にも設備的にも個人のプロボノ活動として実現・継続可能なものではなかった。そこで、iSPPへプロボノワーカー募集のお願いをするに至った。iSPP側では、本件のプロ

ジェクトに関して、岸原夏子氏がプロジェクトマネージャーとして、各種の連絡調整および指揮を執って頂いた。岸原夏子氏自身も、プロボノワーカーであり本職としては企業勤めの方である。本プロボノ募集の趣旨に賛同して頂けたのは、平成23年度は14名（河合孝彦氏、間壁大氏、間壁ひろみ氏、呉旻立氏、山本貴士氏、荒木紀子氏、小泉学氏、錦戸陽子氏、内山恵美子氏、酒井紀之氏、玉槻功氏、岸原孝昌氏、岸原夏子氏、安藤明伸）、平成24年度は9名（小泉学氏、山本貴士氏、間壁大氏、呉旻立氏、酒井紀之氏、遠藤政城氏、岸原孝昌氏、岸原夏子氏、安藤明伸）となった。

3.1. 平成23年度の取り組み：デジタル応援メッセージの作成

故郷復興プロジェクトの趣旨としては、前述の通り仙台市内の全189校の小中学校、児童生徒約8万人が一体となり復興への想いを形にするというテーマであった。平成23年度は、その想いを一体感のあるメッセージとして表したいとのことで、各小中学校で復興への応援旗（70cm×110cm）を作成し、仙台市各区に「笑」、「光」、「友」、「絆」、「笑」の漢字を割り当て、各漢字を応援旗で形作ることになった（図1～図4）。



図1 太白区の小中学校で構成した「光」

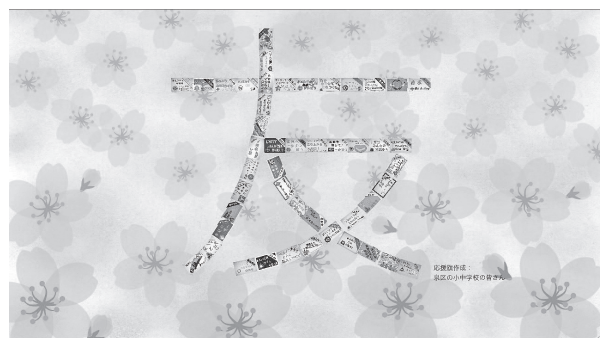


図2 泉区の小中学校で構成した「友」

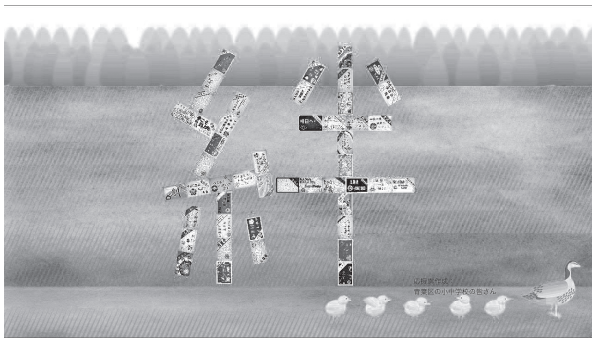


図3 青葉区の小中学校で構成した「絆」

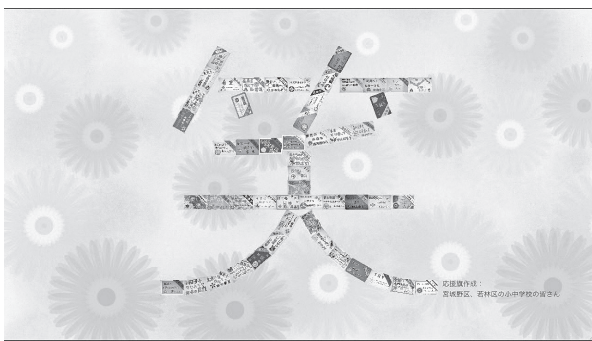


図4 宮城野区・若林区の小中学校で構成した「笑」

また、デジタル応援メッセージとして富沢中学校の生徒が歌う「Believe」をBGMに応援旗が1枚ずつ移動・回転しながら紹介できる作品も必要とされた(図5)。



図5 応援旗とビデオの1シーン

さらに、その応援旗を並べ、仙台市教育委員会教育長直筆の「底力を見せよう!」のメッセージを書いた大型ポスターの作成を行うこととなった(図6)。

各校で丁寧に彩色された応援旗は、デジタル化する必要があったため、一旦仙台市教育委員会へ全て集められ、その後iSPP東北事務所経由で東京へと運ばれた。東京では写真撮影担当メンバーがプロ仕様の撮影

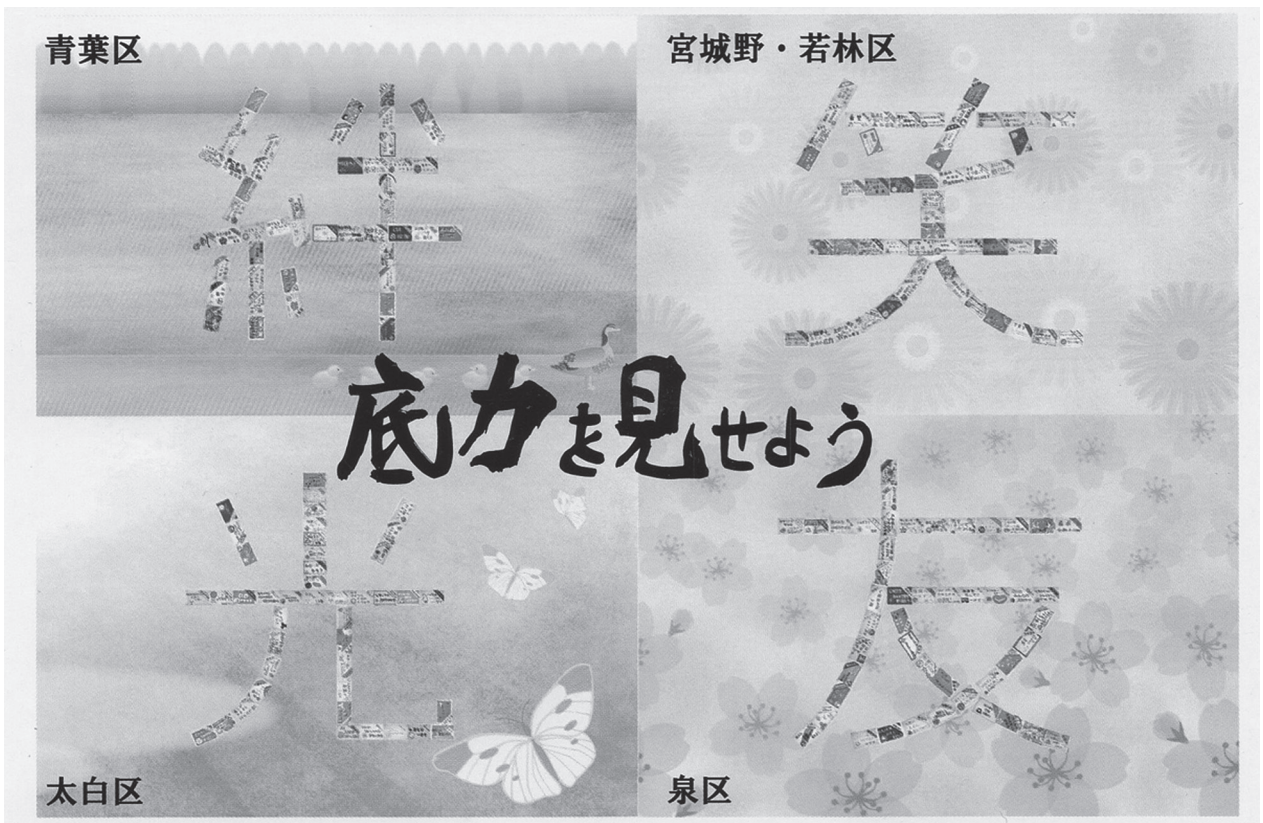


図6 「底力を見せよう」のメッセージを入れたポスター

機材にて応援旗を1枚ずつ高解像度で撮影した。撮影されたデータは、レンズ収差等の補正を行う必要があったが、この作業を189枚全てに行うのはかなりの時間を要するため、写真補正はフォトタッチに心得のあるメンバーで分担した。安藤研究室としては、ゼミ学生もこの作業に参加することを通して、写真加工というスキルを習得しながら、プロボノへ参画する機会とした。学生達は自分たちの作業したものと、プロが作業したもののクオリティに驚きながらも、少しずつテクニックを習得していくことができた。

それ以外にも、デジタル応援メッセージの動画の背景には、プロのイラストレータによる描き下ろしの作品が提供され、旗で漢字を形作る作業では、プログラマーが旗の配置される各座標をコーディングし、映像編集では音楽に合わせてアニメーションを入れDVDを作成するなど、予想以上に大がかりな作業となった。完成したポスターやDVDは市内各校に配布された他、教育委員会関係の行事ではDVDの放映が行われた。7月7日には、学校・家庭・地域をつなぐ教育フォーラム2012にて本プロジェクトを紹介やDVD放映する機会を得た。図7は、教育フォーラム2012での展示用に筆者が作成した本プロジェクトの紹介ポスターである。

3.2. 平成24年度の取り組み：モザイクアートの作成

平成24年度は、これまで全国・全世界から支援して頂いたことに対する感謝の気持ちを伝えることがテーマとなった。プロボノが必要とされた内容は、市内の各小中学校で独自に活動してきた様子を撮影したスナップ写真5枚を集めた約950枚もの写真をもとに、七夕の折り鶴を写した写真(図8)をモザイクアート加工するというものであった。この七夕の折り鶴は、仙台市立学校の全児童生徒が復興への想いを込めて作成したものである。

各学校からは、挨拶運動や美化運動等の活動写真を送って頂いたが、大きさや書式が異なっており、今回もフォトタッチ作業に工数を必要とした。今回のプロボノ活動に賛同して頂いたメンバーも、日本各地からの参画であったが、ネットワーク上でのファイル共有サービスなどを利用することで、共同分担作業を行

うことができた。集められた写真からモザイクアートに加工する過程では、手作業では困難であるため、モザイクアート作成のための専用ソフトウェアを駆使し最も見栄えが良くなるよう、多くの調整を重ねて完成に至っている。こうして最終的に完成したモザイクアートポスターは、8110×5732ピクセルの大きさと、ファイルサイズは44MBにも及び、印刷したサイズは縦約1m、横約1.5mという特大サイズである。ポスターは、「絆・元気・未来」という文字が入ったもの(図9)と、「仙台から全国の皆様心温まるご支援をいただきありがとうございます」の2種類を作成した。完成したポスターは、震災以降交流を行っている神戸市の中学校85校と全都道府県、政令市にも送られた。

4. おわりに

仙台市の児童生徒の想いを実現するためには多くの専門知識と技術・設備、時間が必要とされた。この2年に渡って、iSPPを窓口とした全国のプロボノワーカーの手で、仙台市の全小中学校の復興へ向けた取り組みを形として残せた意義は非常に大きいと思われる。安藤研究室として参画できたことは限られた点ではあるが、学生にとっても「プロボノ」活動を知り関わることのできる大変良い機会となった。大学において我々教員は「連携」との名目で、無償で授業改善へのアドバイスや出前授業等を行うことがあるが、これは一種のプロボノ活動と言える。教員に求められる社会貢献は、企業におけるCSR(corporate social responsibility: 企業の社会的責任)と捉えることもできるが、プロボノ活動はそうした意味でも、教員が各自の所属講座に捕らわれず、得意分野を生かせる貢献のあり方として意義がある。

プロボノ支援を必要としている自治体やNPOは、潜在的にも多く存在すると思われる。今後、iSPPのようなプロボノ活動の窓口となる組織に求められる価値は一層高まって行くであろう。将来的に教職に就く者が多い本学の学生には、「プロボノ」という各自の「職能」を活かした社会貢献のあり方を、児童生徒へも広げてくれることを期待したい。

仙台市児童生徒による故郷復興プロジェクト 8万人の力をひとつに！

児童生徒の想いがプロボノ活動により現実のものへ。

仙台市内189の小・中学校の児童生徒が作成した応援旗をデジタル化し、
デジタル応援メッセージ動画を作りたい。
仙台市内の各区ごと応援旗で1つの文字を。
選ばれた文字は「絆」「笑」「光」「友」
BGMには、富沢中の合唱「Believe」
最後は「底力を見せよう」のメッセージで締めくくりたい・・・



●プロボノとは
「公共善のために」を意味するラテン語 pro bono publico に由来する言葉で、専門的な知識・経験・技能・資源を有する人々が、それらを活かして社会貢献するボランティア活動を指します。



3月 クリスマスロードに応援旗が掲げられ、
応援旗ポスターも掲載。
完成した動画はDVDにして全校へ配布



2011年11月
仙台市全小・中学校で応援旗作成
iSPPPプロボノ募集・プロジェクト結成

12月～1月 演出絵コンテ検討



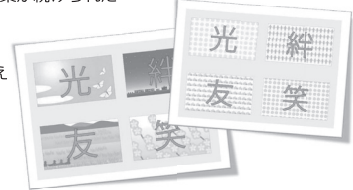
2012年1月 iSPPP東北事務局に全ての
応援旗が届く。最高の環境下で撮影する
ため、応援旗を東京へ運ぶ。

iSPPP東京チーム12名は、連日
遅くまで189枚の旗の撮影と



2月 0.1秒単位の動画編集が続けられた

いくつもの案が出されては消え



1枚1枚の画像を切り取り・編集し
丁寧に配置する。



情報支援プロボノ・プラットフォーム (iSPPP) とは

2011年5月24日に400名の賛同者によって設立された、被災地・被災者ニーズと支援・復旧活動をつなぐ情報支援プラットフォームを提供する非営利プロボノ団体。情報通信(ICT)に関係する個人・NPO・団体・企業で構成され、会員は、自らのプロフェッショナルな知識・経験・技能・資源を活かして、被災地・被災者のニーズと実情に即した、さまざまな情報プラットフォームの構築と運用マネジメントの提供に取り組んでいます。

一緒に活動しませんか

情報支援プロボノ・プラットフォーム 事務局
仙台市宮城野区宮千代3-2-14 高時ビル4F
電話 022-235-9630 FAX 022-236-8760
Mail : pr@ispp.jp
Web : <http://www.ispp.jp/>
facebook : <http://www.facebook.com/iSPPPFB>

図7 完成までの経緯を書いたポスター



図8 モザイクアートの元となったセタの写真

参考文献

@IT 情報マネジメント用語辞典 CSR, <http://www.atmarkit.co.jp/aig/04biz/csr.html> (参照日 2013 年 1 月 28 日)

DIAMOND online, 「プロボノ」で自分も NPO も社会も変える時代, <http://diamond.jp/articles/-/20173> (参照日 2013 年 1 月 28 日)

Hello, PROBONO, <http://servicegrant.or.jp/probono/> (参照日 2013 年 1 月 28 日)

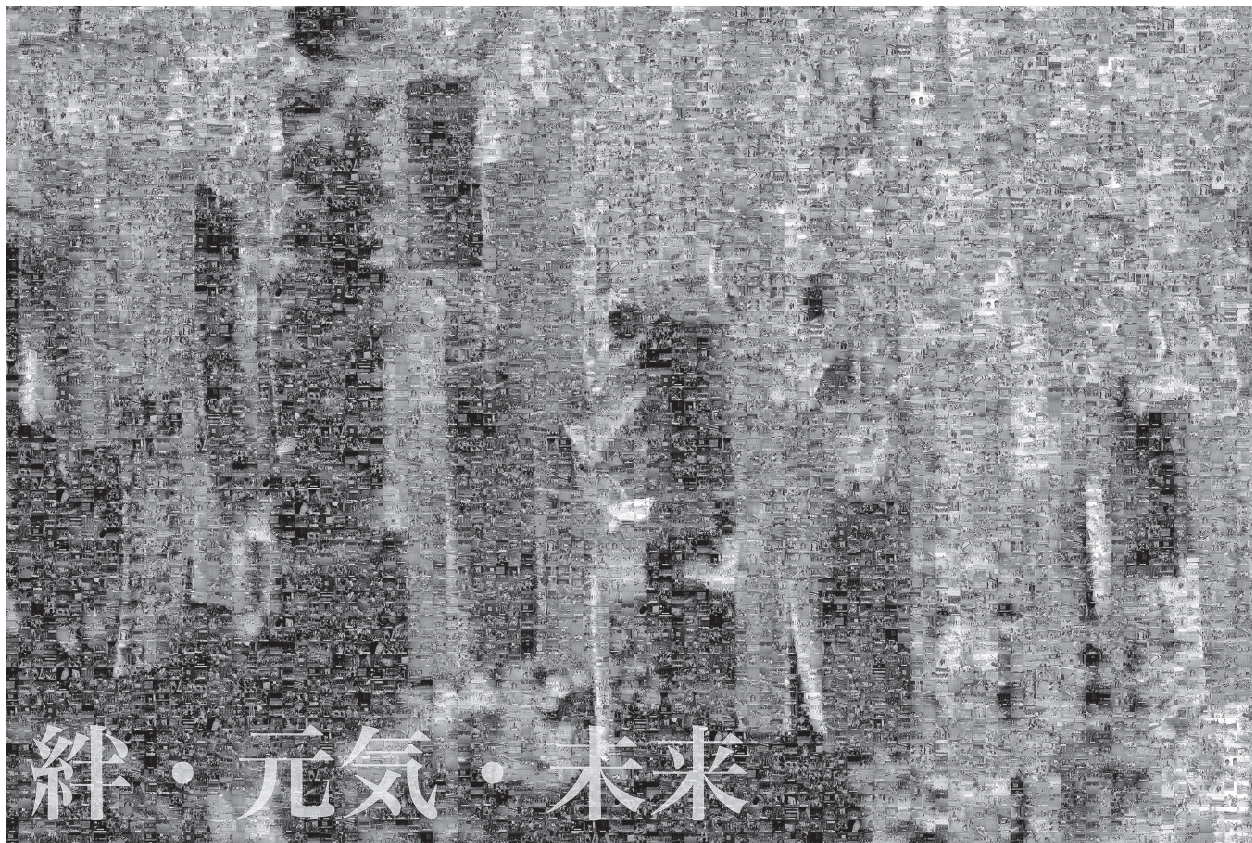
iSP 情報支援プロボノ・プラットフォーム, <http://www.ispp.jp/> (参照日 2013 年 1 月 28 日)

河北新報 小中の学校生活写真で「復興アート」仙台市教委 (2013 年 1 月 17 日発行), <http://www.kahoku.co.jp/news/2013/01/20130117t15022.htm> (参照日 2013 年 1 月 28 日)

日経 Biz アカデミー, プロボノ～職能を生かす新ボランティア, <http://www.nikkeibp.co.jp/article/column/20100219/211732/?ST=career&P=1>

仙台市教育委員会 教育相談課, 故郷復興プロジェクト, <http://www.sendai-c.ed.jp/~soudanka/seitosidou/project/index.html> (参照日 2013 年 1 月 28 日)

仙台市 市政便り 2011 年 12 月号, <http://www.city.sendai.jp/soumu/kouhou/shisei/sis1112/tokushu01.html> (参照日 2013 年 1 月 28 日)



児童生徒による故郷復興プロジェクト

仙台市立小中学校・中等教育学校・特別支援学校

図9 全市から送られてきた写真をもとに完成したモザイクアート